

子育て真っ最中のみなさん、 そして保育・教育職員のみなさん！

豊中では半世紀近くにわたって「障害」のある子もない子も同じ場で「ともに学ぶ」保育・教育をすすめてきました。この「ともに学びともに育つ」教育理念は普遍的なものであると、豊中市は明言しています。

2022年4月、文科省は授業時数の半分以上を学ぶ場を分ける（支援学級への取り出し）よう通知しました。これに対し、国連は2022年9月、日本政府に対し「ともに学ぶ」教育に反するこの通知の撤回と特別支援教育を止めることを勧告しました。

そして今、豊中市内（七中跡地）に2つ目となる支援学校が増設されようとしています。豊中市行政は「地域の学校が基本」という姿勢であるにもかかわらず、なぜ支援学校への就学希望者が増加しているのでしょうか。不登校児童・生徒が増えているのも懸念されます。子どもたちにとっての社会である、学校のあり様はどうなのでしょう。

私にとって、あなたにとって、すべての子どもの「学びの場」を分けない「ともに学び ともに育つ」教育とはどういうことなのでしょう。親、教職員、そして教育研究者の方々によるシンポジウムを皮切りに、参加の皆さんによる白熱した議論を通して考えてみませんか。

市民の皆様、ぜひご参加ください。お待ちしております。

とき 2024年11月2日(土)
13:30~16:30

ところ 庄内公民館 410講座室
(庄内コラボセンター「ショコラ」4階)

○参加費不要・予約不要！（感染症対策は十分に行います）

*参加者は当日、自宅で検温の上、発熱・体調不良等のないことを確認の上ご参加を！

*手話通訳あります。保育はありません。

「ともに育つ」？
「まなぶ」？
子どもを分けない教育とは

第12回「子育て・教育講演会」

イラスト：
ムーコ

主催：「障害」児・者の生活と進路を考える会

協力：豊中市教職員組合

後援：豊中市・豊中市教育委員会

問い合わせ先：「考える会」代表 鈴木留美子 携帯電話：090-9166-5575

メール：rumikos-suzulann@shore.ocn.ne.jp Fax：06-6840-1622

この事業は海老原宏美基金の助成を受けております